

科目名	ケーススタディー	担当教員	伊藤 俊輔 世古 俊明 ※印は実務経験のある教員を示す。			
-----	----------	------	------------------------------------	--	--	--

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR31DE	②、③					

科目概要	<p>これまでに学んだ理学療法に関する検査測定、個人因子や環境因子を含めた評価、問題点抽出、目標設定、治療プログラム作成・実施について基礎的な知識を基に、整形外科の疾患、中枢神経疾患の症例を中心としたケーススタディーを行う。ケーススタディーを通し、評価項目の選択・結果の解釈ができるように学んでいく。そして得られた評価結果から、統合と解釈および問題点の抽出の仕方についてもイメージすることができ、臨床実習に繋がられるように進めて行く。</p>
学習目標	<p>患者背景などの一般情報や医学的情報から検査項目を選択する思考過程を養い、検査目的や検査結果の解釈に関する思考力を深める。また、統合と解釈から治療に関する思考過程が向上する。</p>

回	項目	主な学習内容	学習目標	実務経験 教員担当 項目
1	オリエンテーション	オリエンテーション	科目概要について理解する。 理学療法評価の流れを理解する。	伊藤
2	整形外科的疾患	股関節疾患のケーススタディ 1	股関節疾患の患者情報から検査項目を選択できる。また、検査の目的を理解できる。	伊藤
3	〃	股関節疾患のケーススタディ 2	股関節疾患患者の全体像を把握し、統合・解釈ができる。治療プログラム立案ができる。	伊藤
4	〃	膝関節疾患のケーススタディ 1	膝関節疾患の患者情報から検査項目を選択できる。また、検査の目的を理解できる。	伊藤
5	〃	膝関節疾患のケーススタディ 2	膝関節疾患患者の全体像を把握し、統合・解釈ができる。治療プログラム立案ができる。	伊藤
6	〃	腰部疾患のケーススタディ 1	腰部疾患の患者情報から検査項目を選択ができる。また、検査の目的を理解できる。	伊藤
7	〃	腰部疾患のケーススタディ 2	膝腰部疾患患者の全体像を把握し、統合・解釈ができる。治療プログラム立案ができる。	伊藤
8	〃	整形外科疾患のビデオケーススタディ 1	動作観察ができる。検査項目の選択ができる。	伊藤
9	〃	整形外科疾患のビデオケーススタディ 2	問題点抽出、治療プログラム立案ができる。	伊藤
10	中枢神経疾患	脳卒中のケーススタディ 1	脳卒中の患者情報から検査項目を選択できる。また、検査の目的を理解できる。	世古
11	〃	脳卒中のケーススタディ 2	脳卒中患者の全体像を把握し、統合・解釈ができる。治療プログラム立案ができる。	世古
12	〃	神経筋疾患のケーススタディ 1	神経筋疾患の患者情報から検査項目を選択ができる。また、検査の目的を理解できる。	世古
13	〃	神経筋疾患のケーススタディ 2	神経筋疾患患者の全体像を把握し、統合・解釈ができる。治療プログラム立案ができる。	世古
14	〃	中枢神経疾患のビデオケーススタディ 1	動作観察ができる。検査項目の選択ができる。	世古

15	〃	中枢神経疾患のビデオケーススタディ 2	問題点抽出、治療プログラム立案ができる。	世古
<b>評価方法</b>		レポート(100%)		
<b>課題に対するフィードバック</b>		1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する(フィードバック)。 2 試験(レポート課題)の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。		
<b>教科図書</b>		なし		
<b>参考図書</b>		限元庸夫・著『症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作』ヒューマンプレス、2017年 市橋則明・著『運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版』文光堂、2014年 鶴見隆正、辻下守弘・編集『標準理学療法学 専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ 第3版』医学書院、2020年		
<b>学習の準備</b>		1 (予習) 事前情報、配布資料の該当箇所を熟読しておくこと(90分) 2 (復習) 授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと(90分)		
<b>オフィスアワー</b>		月曜日 10時～16時、その他在室時はいつでも可		
<b>担当教員欄に※印を附した教員の 実務経験</b>				